令和7年度
第 2 号

進路情報

DREAM

岡崎盲学校
進路指導部
編集・発行

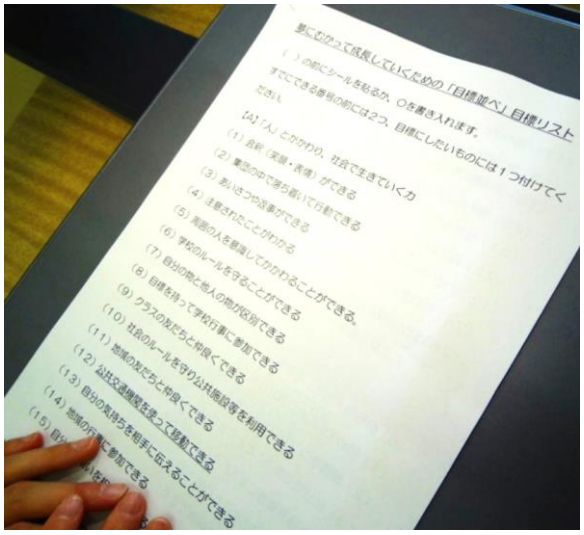
【中学部 進路を考える月間】

中学部教諭

中学部では、5月を「進路を考える月間」と設定し、自分の進路に向き合う機会をつくること、そして勤労観や職業観を育て、自分自身の進路に結び付けることを主な目的として、進路の学習に取り組んでいます。

具体的な活動として、「夢に向かって成長していくための目標リスト」というものを活用し、今の自分にできていること、できていないこと、これから目標にしていきたいことを整理して考えていきます。この目標リストは、愛知県教育委員会が作成した「キャリア教育ノート」の内容を、視覚に障害がある本校の生徒向けに手直しをして作成したもので、

①『人と関わり、社会で生きていく力』
②『自分の個性を理解し、伸ばしていく力』
③『任された役割を理解し、やりきる力』
④『夢をかたちにし、歩んでいく力』
の四つの項目からまとめられています。



このリストに沿って、例えば「あいさつや返事はできますか？」などと質問形式で聞いていくと、ほとんどの生徒が元気よく「はい！ できます！」と答えます。でも、本当にできているでしょうか？ 声の大きさはどうでしょうか？ 適切な言葉遣いができているでしょうか？ 相手や場に応じた対応ができているでしょうか？ 具体的な場面を想定して、深く考える必要があると思います。

目標リストのチェックをしていて改めて思うことは、キャリア教育というものは、普段の学校生活、あるいは家庭生活全般で、その場その場で経験として学習を積み重ねていくことが重要だということです。

中3になると、「チャレンジ体験」として、実際に校外の事業所等で働く活動を体験します。 また、高等部になると「産業現場等における実習」として、より各自の進路を強く意識した実習が行われます。これらの活動を経験していく中で、それぞれが真の「はたらく力」を身につけていってほしいと思います。

【宝島】

高等部理療科教諭

みなさんこんにちは。前回は私が作詞・作曲した楽曲を聞いていただき、ありがとうございました。いろいろな方から「よかったですよ」というお褒めの言葉をいただき、とてもうれしく思いました。今後もリクエストがあれば、また私の趣味について書いてみようと思います。

さて、小・中・高等部のみなさんは「進路希望調査」をつい先日提出したのではないでしょうか？ 振り返ってみると、私は中学部や普通科のころ進路希望調査という書類を見たこともなく、私自身が希望する進路を表明したこともあまりなかったように思います。親と同居するのか、独立して暮らしていくのか、それが将来の進路と考えていたように思います。親からも「どんな仕事をしていきたいの？」とか、「何をして経済的に自立していくの？」などと聞かれることもなく、ただ「こんなこともできないと一人じゃ生きていけないよ」と、日常生活上の様々な行動について促されていたことしか記憶にありません。今思えば私の両親にとって最も不安だったのは、私がなるべく人の手を借りずに独立して日常生活を送ることができるかという点だったのではないかと思います。私はといえば寄宿舎生活で掃除や洗濯は日常的にこなしていたので、そんな両親からの言葉かけは、ともするとうっとうしいと感じていました。しかし寄宿舎を離れて一人で生活することになったとき、掃除や洗濯ができてもそれだけでは困ることがたくさんあるということを知りました。当時私自身にもっと知恵があったり、現在のようなネットが存在したりしていれば、困らなかったこともたくさんあります。今回はその中の一つを紹介したいと思います。

「知ってるというのは、できることとは違う？」

私には苦手なことがいくつかあります。ヘルパーさんに代行してもらうなど、今なら適切に対応して困りごとを解決していくことができるでしょう。しかし一人暮らしを始めたころの私は、聞いた話や少ない経験から困ることはないだろうと高をくくっていました。

まず最初に私が困ったのは料理でした。料理そのものは嫌いではなかったので、寄宿舎にいるときも家庭科クラブなどでお菓子を作ったり焼きそばを作ったりして楽しんでいました。ところが、いざ自分の食生活を自分で考えて料理することになると困ることばかりでした。

焼きそばは作ったことがあるからそれを食べてみようと思い、買い物に出かけました。すると自分では判断できないことがたくさん出てきました。たくさんあるので、箇条書きにしてみます。

1 豚肉を使うことは知っているけど、どんな切り方の肉をどのくらい買えばよいの？ 1パック全部使うのかな？

2 キャベツは丸ごと1個でよいの？ それとも半分にカットされているものでよいの？ キャベツにもグリーンボールとかいろいろ種類があるみたいだけど、何を買えばよいの？

3 そばは一人で食べるんだから1袋あればよいと思うんだけど、3つでいくらとか、1袋三つ入りがあって、これから3食連続で食べるしかないの？

4 ソースにもいろいろな種類があるみたいだけど、何を買ったらよいの？

5 前作ったときはニンジンや玉ねぎも入れたけど、一食にどのくらいの量がいるの？ 少々多いのはよいけど、あまりにも多すぎるのは嫌だな。ニンジンも玉ねぎも1個で売ってないよ。

6 紅ショウガがあると美味しいという話があったけど、チューブに入ったショウガじゃダメなの？ 紅ショウガは見つかったけど、袋の中の汁は捨てるの？ それともかけるの？

7 炒める油にもいろいろな種類があるけど、何を選んだらよいの？ ボトルが大きいけど、こんなの買って一人で使い切れるの？

8 肉と野菜を炒めるときに塩・コショウを使っていたけど、本当に必要なのかな？ 塩・コショウはそれぞれどのくらい使えばよいのかな？

9 もしまずかったら、マヨネーズをかければ味が激変するんだよな。マヨネーズも買っていこう。 …などでした。

次にいざ調理に入ったのですが、母親とか友人に作り方を聞いて手順は分かりました。しかし、ここでも細かいことが分かりません。こちらも具体的に困ったことを箇条書きにしてみます。

1 キャベツって、玉ねぎを切るみたいに切ってしまえばよいのかな？ ざるいっぱいになっちゃったけど、こんなに食べられるのかな？

2 肉はお店の人から豚バラ肉でよいと言われたけど、バラ肉ってバラバラに切れているということ？ だったら、フライパンにそのままパックから移して炒めればよいの？

3 フライパンをよく熱してと説明されたけど、鉄が熱くなってきたときの匂いがすれば大丈夫なの？ この状態で油を使うと言われたけど、油って熱いと火が出るんじゃないの？

4 とりあえず肉をフライパンに入れたけど、固まってバラバラにならないじゃない？ よく炒めるように言われたけど、このまましばらく放置することなの？ それともかき混ぜるようにしてバラバラにすることなの？ 何分くらい炒めると、よく炒めたことになるの？ パチパチ熱い油が飛んでくるんだけど、大丈夫なのかな？

5 火の通りにくいかたい野菜から炒めるようにと言われたけど、これもどのくらい炒めるのかな？

6 塩・コショウって、どのタイミングで使うのかな？

7 肉やかたい野菜はよく炒めるようにと言われたけど、このまま強火のままでよいのかな？ なんか焦げ臭いような気がする。

8 キャベツってこのまま、ザルいっぱい入れてもよいのかな？ これじゃそばが入らないけど。

9 飛んでくる油は熱いし、湯気みたいなのがたくさん出てくるけど、もっと手早くかき混ぜるようにして炒めなくちゃいけないのかな？

10 大きくかき混ぜるようにしたけど、ほとんどフライパンの外にこぼれちゃってるよ。

11 そばを入れたら最後に水を入れるとよいと聞いたけど、どのくらい入れるの？ コップに半分くらい？ 水を入れたら炒めている音が急に小さくなったけど、本当に大丈夫？焼きそばじゃなくて、煮そばになったんじゃないの？

12 お皿に入れようと思ったけど、入りきらないみたい。困ったなあ。

とまあ、散々な状態でした。もちろん、そのあと食べることはできましたが美味しいとはいえないものでした。あげくにコンロの周りには食べた量と同じくらいの野菜が散らかっており、片付けるのに相当な時間がかかりました。

エピソードはこれだけではありません。「知っている」、「分かる」ということと、

「できる」とは全く違っていました。話を聞いてある程度の情報はもっていたものの、それは美味しい焼きそばを作ることには直接つながりませんでした。クラブの時はみんなでワイワイ作っていたので、「これくらいでいいんじゃない？」などの会話に参加していただけで、自分で判断していたわけではありませんでした。なのに、自分で作っていたような気になっていたというわけです。私はこのような失敗を今後も多くの場面で経験します。もちろん私の楽観的な性格も影響しているでしょう。しかしこれらの失敗を経て私をはじめ、みなさんにも少し考えていただきたいと思います。

私たち視覚障がい者は何気なく他の人がこなしている姿を見ることができません。写真などから、「こんな形に切ってみましょう」や「こんな色になったら十分火が通っています」などは分かりません。この例のように、「よく炒めてね」は音で判断するのか時間で見当をつけるのかなども、事前に理解しておく必要があります。「できます」、「分かります」、「知ってます」は、何をどこまで理解しているのかを慎重に見極めることが必要だと思います。今回の例では、聞いたことがある話や事前に聞いたある程度の説明、それに作ったことがあるという経験が、自分にも周囲にもこれなら問題ないと思わせてしまう、言わば誤解になってしまいました。現に私自身も「焼きそばの作り方は？」と聞かれれば、材料も手順も説明できました。ところがです。実際は知らないといったほうが正確な答えになったわけです。だれでも「知らない」、「分からない」と言い出すのは抵抗があるでしょう。私を例にすると、「視覚障がい者だから分からないことが多いのかな？」、「見えないから知らないことが多いのかな？」と周囲に思われてしまうことに対する抵抗感が少しはあります。しかし、現実は見えないことによる情報不足が残念な結果につながっています。視覚障がいのみなさんは私のようになっていないか、「知ってます」、「分かってます」と答えるときには「できることとは違うかもしれない」と冷静になってみてください。保護者や先生方は本当の意味で「分かっている」という答えについて、「どこまで理解して、実行できるんだろう」と考えてみてください。

視覚から得られる情報が少ない私たちは、特に自分自身で経験しておくことが重要だと思います。いろいろな状況で経験ができないのであれば、より詳しく確認することが必要だと思います。極端な例かもしれませんが、自分が知っていることは「知っている」だけで、理解していないのではないかという見方が大切ではないでしょうか？ こんな考え方を、普段の学習や進路を考えるときに自分に問いかけてみてください。

【盲導犬の正しい理解】

進路指導主事

盲導犬について、募金活動等のイベントで見たりメディアで耳にしたりすることはあっても、実際に街中で活動している様子を目にした方は少ないのではないでしょうか。盲導犬利用の検討にあたっては、「盲導犬貸与の競争率は厳しい」、「マッチングまでに十年近くかかる」、「全盲でなければ申し込みができない」等の認識や、「本当に犬に命を預けることができるのか？」、「盲導犬貸与前後のサポート体制は十分なのか？」といった不安のある方もみえると思います。しかし、実際の貸与状況や活動の様子はどのようになっているのでしょう。先日、本校との連携について中部盲導犬協会で相談させていただいた際、盲導犬利用にあたっての条件や具体的な活動等を聞いてきましたので、その内容をQ&A形式で簡単に紹介します。

Q1：盲導犬利用の相談や申し込みはどこで行えますか？

A1：名古屋市港区にある「中部盲導犬協会」に直接、ご相談ください。

Q2：現在、愛知県内では何頭の盲導犬が活動していますか？

A2：34頭の盲導犬が元気に活躍しています。各ユーザーすべてに、無償で貸与しています。

Q3：貸与者の年齢条件はありますか？

A3：18歳以上の方が対象です。

Q4：ユーザーは全盲の方だけが対象ですか？
A4：視覚の分野で、身体障がい者手帳の交付を受けた方であれば等級は問いません。目が見えにくいことで生活や通勤など様々な不便を感じている方に対して盲導犬を提案しています。約半数がロービジョンのユーザーです。

Q5：申し込みから盲導犬貸与まで、どのくらいの期間がかかりますか？
A5：貸与者の条件によって異なりますが、現在では半年～1年半の間に候補犬の選定をできることが多いです。約8年間生活を共にするパートナーを選ぶため、慎重に候補犬の選定を行います。

Q6：貸与できる犬種を教えてください。
A6：主にラブラドール・レトリバーです。性格が温厚で、成人と歩く上で体の大きさのバランスがよく、短毛で衛生管理がしやすいことが理由です。また、少数ですがゴールデン・レトリバーなど、その他の犬種が貸与されることもあります。

Q7：貸与前のユーザー研修はどのようにしていますか？
A7：候補犬と一定期間、生活を共にしながら歩行訓練を行います。また、その他にも給餌や衛生管理、排泄等の方法を学びます。入所訓練が基本ですが、勤務する会社が長期で休めない場合などは、通所訓練や自宅訓練といった方法で対応できる場合もあります。

Q8：貸与後のユーザーへの支援はどのようにしていますか？
A8：1年目はユーザー宅へ定期的な訪問を通じて、困難ケースの具体的な支援やアドバイスをしています。その後についても必要があれば、ユーザーの要望に応じて相談やフォローアップをしています。

Q9：盲導犬は、職場やショッピングモール等、行きたい場所へ案内してもらうことができますか？

A9：盲導犬の仕事は、「角で止まる」、「段差で止まる」、「障害物を避ける」の3つの基本動作で、ユーザーが安全に歩くために必要な情報を提供することです。ナビゲーターのように道を覚えて先導することはしないので、ユーザー自身で目的地までの道順を盲導犬に指示する必要があります。

Q10:盲導犬の活動中に、視覚障がい者が交通事故にあって怪我をしたことはありますか？

A10:過去の事故をすべて把握しているわけではありませんが、盲導犬が原因となる交通事故はこれまで聞いたことがありません。逆に盲導犬が身を挺してスリップして向かってきた自動車からユーザーを守った事例はあります。

※ユーザーを守るために脚を失った盲導犬サーブの像

盲導犬利用にあたっては、住宅環境、進路先の理解、養育費用、家族の協力など、様々な条件が関わってくるので、一概に誰にでも勧められるというわけではありませんが、現在でも視覚障がい者への有効な歩行支援手段であり、正しい理解のもと、選択肢の一つとして検討していただけばと思います。

盲導犬に関心のある方は、中部盲導犬協会に勤められていた経験のある本校の坂部先生に聞いても、快く相談に乗っていただけます。ちなみに、坂部先生がもし目が見えにくくなった場合は、迷わず盲導犬と一緒に暮らしたいと力強く話されていました。

【トクレイコガイシャ って何？】

特例子会社とは、障がい者の雇用の促進と安定を図るために親会社が特別に設置した子会社のことを指します。厚労省から特例子会社としての認定を受けることで、その子会社で雇用されている障がい者を親会社で働いているものとして“特例的に”障がい者雇用率へ合算することができます。

特例子会社は、いずれも障がい者が働くことを前提とした運用をしているので、社員の支援を担当する人員が配置され、職場の環境や設備面においても特別に配慮されています。仕事内容は個々の障がい特性にできるだけ合わせて細分化され、一般企業の障がい者雇用に比べて離職が少ないことも特徴です。

現在、愛知県内には34社の特例子会社がありますが、仕事内容は必ずしも親会社の業務に直結するわけではなく、清掃・調理・理療など多岐にわたり、個々の実態や得意分野などを考慮して職場配置をしています。

仕事の具体的な内容について、本校生徒が就職・実習等でお世話になっている企業を例にあげます。

◆トヨタループス（親会社：トヨタ自動車）
　⇒ ヘルスキーパー、印刷業務、物流業務、清掃業務、製造業務
◆三菱 UFJ ビジネスパートナー（親会社：三菱 UFJ 銀行）
　⇒ 公的調査の回答、点字書類作成、メール点検、書類封入・発送業務
◆イナテックサービス（親会社：イナテック）
　⇒ リサイクル業務、物流業務、清掃業務、調理補助業務
…等に分けられ、それぞれ親会社から受託した業務を行っています。

特例子会社は、必ずしも利潤追求を目的としていません。そのため雇用については、基礎的な学力の他に、コミュニケーション面や安全面などの適応力を評価する事業所が多く、親会社とは異なる採用基準が設けられています。